

2024.03.27

オンライン講座

精神医学（各論）_3_不安症群／強迫症／
PTSD／解離症／身体症状症_1



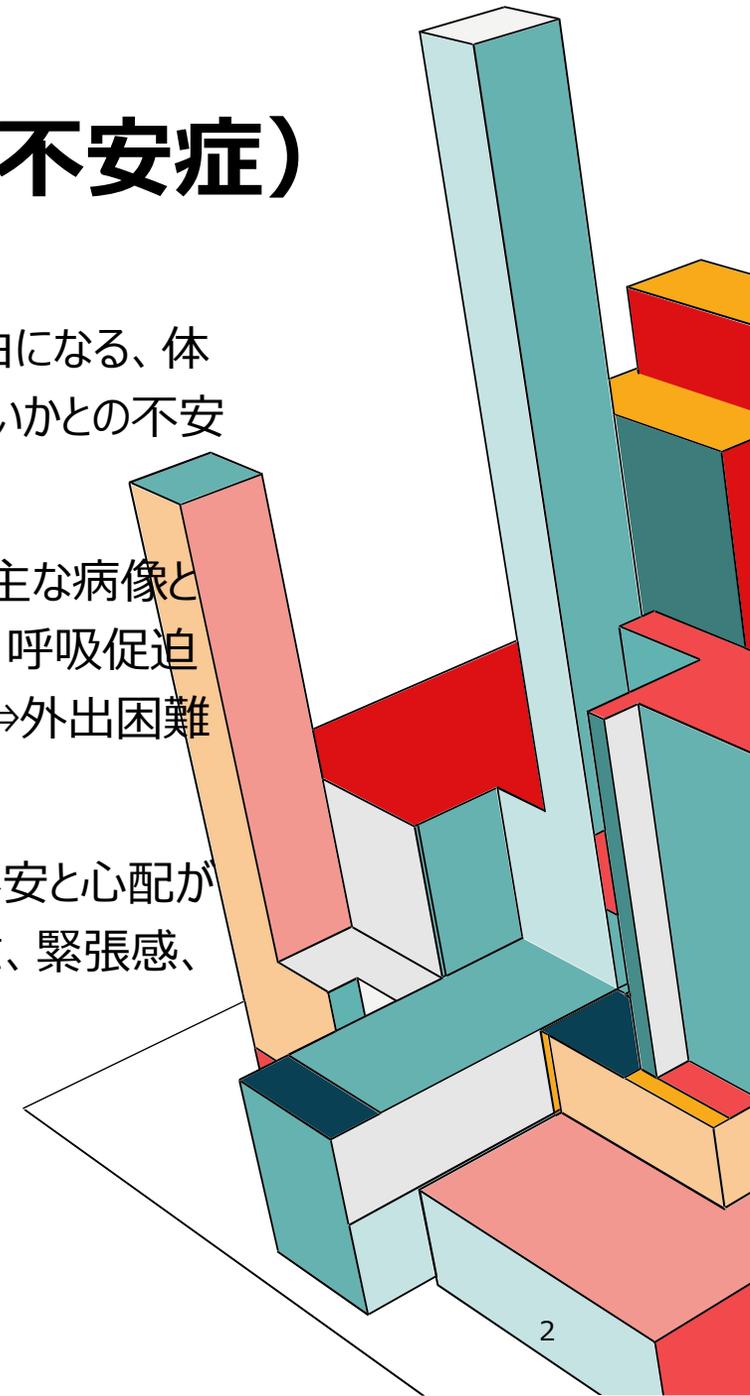
もりさわメンタルクリニック

不安症群（社交不安症、パニック症、全般不安症）

社交不安症：人前に出ると緊張しすぎて、思うように話ができない、頭のなかが真っ白になる、体が震える、冷や汗が出るなどの症状が出現し、そのことを他者から軽蔑されるのではないかと不安から、社会的状況を回避するもの。

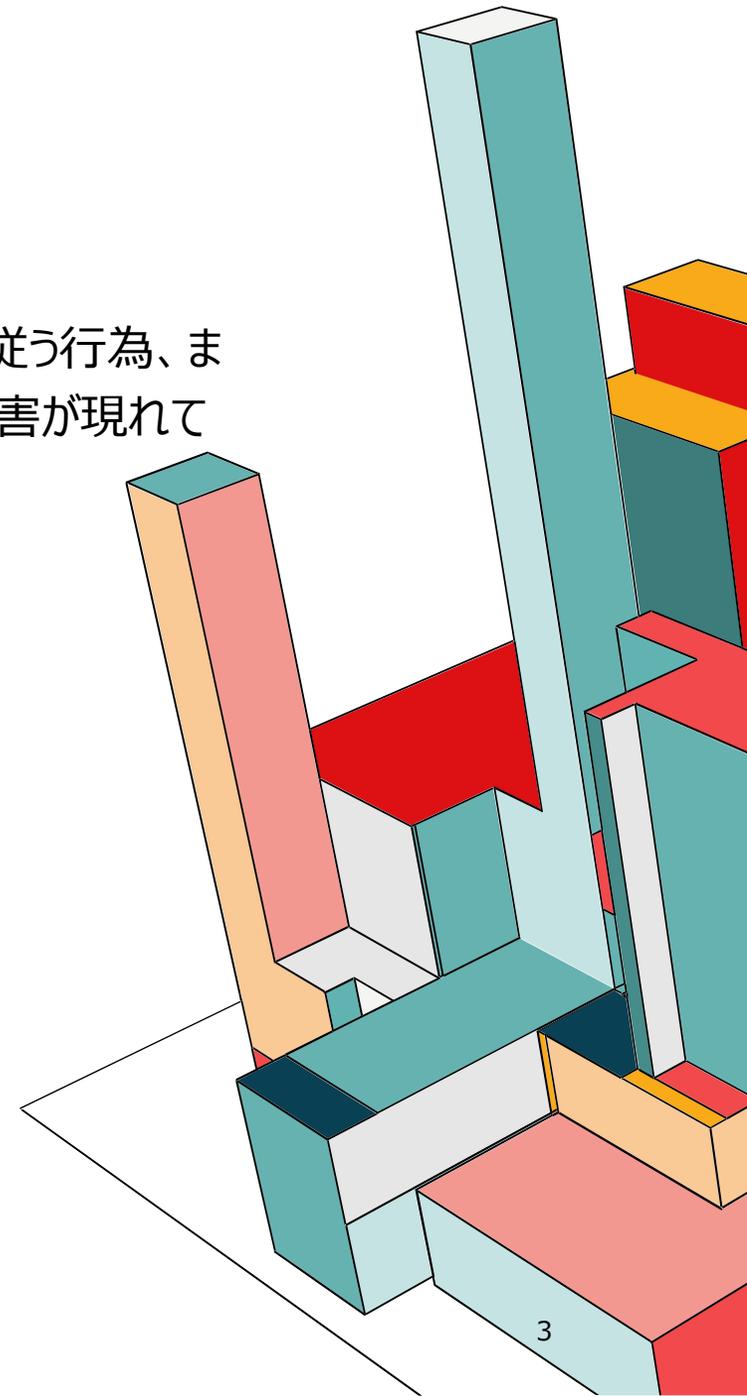
パニック症：予知できずに突然起こる反復性の重篤な不安発作（パニック発作）を主な病像とする障害。窒息感、めまい感、脱力感、冷感などの全身症状、動悸、頻脈、胸痛、呼吸促迫（→過呼吸症候群）、悪心、発汗などの自律神経症状が突然起こる。予期不安⇒外出困難などの日常生活への影響。

全般不安症：（仕事や学業などの）多数の出来事または活動についての過剰な不安と心配が起こるときが多い。そのような時期が6ヶ月以上続く場合に診断される。落ち着きのなさ、緊張感、疲労感、集中困難、睡眠障害等を伴うことが多い。



強迫症

意に反して強迫的に意識に現れるコントロール不能の考えを強迫観念、強迫観念に従う行為、またはその考えを追い払おうとして行う行為を強迫行為、これらによって生活に著明な障害が現れている状態を強迫症と呼ぶ。



心的外傷後ストレス症（PTSD）

出来事基準にあげられているのは、生命の危険を感じる出来事や重傷を負うような出来事、あるいは性的暴力を体験したり、間近に目撃したり、身近な人に起こったことを知るような状況である。そのような生命や安全を脅かされるような著しく驚異的な体験（心的外傷体験）を契機として、フラッシュバックなどの「再体験症状」、外傷を想起させる場所など回避する「回避症状」、興味や関心が乏しく、物事が楽しめなくなる「麻痺症状」、不眠、イライラ感、集中困難が生じる「覚醒亢進症状」が出現する。（1ヶ月以内を急性ストレス障害と呼ぶ）

※複雑性心的外傷後ストレス障害（complex post-traumatic stress disorder : CPTSD）：CPTSDについては「最も一般的には、逃げるのが困難であるか不可能な持続的あるいは反復的な出来事に続く」とされているが、自己組織化の障害（disturbance of self-organization : DSO）、つまり①感情調整の困難 ②否定的な自己概念 ③対人関係の困難が重要である。

